

青森田中学園報

こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
認定こども園
青森中央短期大学附属第一幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
中央文化保育園
浦町保育園



撮影：青森中央学院大学経営法学部2年 NGUYEN VO PHUONG LINH

特集：平成26年4月看護学部開設


vol.89

目次

特集：平成26年4月
看護学部開設 2

キャリア支援活動の
現在の状況について 4

青森中央学院大学 6

- ・本学とむつ市が協定を締結
- ・トライアウト
- ・元気便発送
- ・冬季スポーツ旅行商品の開発発表
- ・私たちの地域活性
- ・全日本大学ボウリング選手権大会
- ・女子団体大会新記録！
- ・国際交流センターより
- ・サークル・ライブ
- ・ゼミ探訪
- ・OB 通信
- ・私の1冊
- ・学生記者発

青森中央短期大学 10

- ・卒業に向けて
- ・平成25年度公開講座
- ・ひとり芝居「ノッポさんの宮沢賢治」
- ・幼児保育学科卒業記念公演
- ・大地連携ワークショップへの参加
- ・同窓会
- ・管理栄養士国家試験対策講座
- ・先生の自分史
- ・研究室を訪ねて
- ・読んで欲しいこの1冊
- ・卒業生も活躍しています
- ・学生記者発

附属第一・第二・第三幼稚園
浦町保育園 中央文化保育園 14

- ・行事アルバム
- ・先生達活躍しています
- ・読み聞かせたい一冊の絵本

青森中央文化専門学校
青森中央経理専門学校 16

- ・Bunka Fashion Live 2013
- ・昭和通り歌姫衣装制作
- ・学生パソコン教室
- ・生涯学習フェア2013
- ・経理発信情報
- ・ファッション通信
- ・おススメ図書
- ・卒業生ピックアップ

インフォメーション 18

- ・FRIENDLY WINDOW より
- ・学生会館同夕食会
- ・開催行事案内

特集 平成26年4月看護学部開設

青森中央学院大学「看護学部」開設にあたり

青森中央学院大学長 花田 勝美



青森中央短期大学の看護学科改組に伴い、平成26年4月から青森中央学院大学に新たに「看護学部」が設置される運びとなりました。青森中央学院大学は新年度から既設の文系「経営法学部」に理系の「看護学部」を加えた2学部体制となります。青森田中学園にとって新年度は記念すべき年となりました。

改めて看護学部設置にいたる経緯を振り返ってみましょう。平成25年5月24日、学校法人青森田中学園は文部科学省へ「青森中央学院大学看護学部設置認可申請書」を提出し、5月31日付けで申請が受理されました。最初の喜びでした。いよいよ6月17日文科科学大臣より「大学設置学校法人審議会」に設置の案件が諮問され、専門家による長い審査に入りました。ようやく10月25日に同審議会より答申が出され、これを受けて文部科学大臣からは10月31日付けで、待ちに待った「設置認可」の書面が届きました。「申請」から「認可」まで実に5カ月余を費やしたものの、その間には上京しての説明やら指導があり順当な経過であったと思います。これに先立ち学校法人に対する審査は個別に行われ、とくに「健全経営」と「定員未充足が生じた場合の対応策（リスクシナリオ）」等に関して例年になく厳しい注文が求められた由です。学園からの申請書の作成・検討は「青森中央学院大学看護学部設置準備委員会」で行われましたが、実際には学園内の多くの教職員を巻き込む一大事業となりました。関係者の労苦も並大抵のものではありませんでした。また、教員補充のために奔走された石田憲久理事長、久保薫学園長（短期大学長）のご苦勞にも敬意を表します。10月末の最終認可から学生募集の期間が短いことから、認可前後の看護学部広報のパンフレットの表記は過去の事例に合わせるべく、「設置構想中」、「設置申請中」「学部誕生」と目まぐるしく変化しました。

「2013年看護学校便覧（医学書院）」によれば、4年制大学で看護系学部を有するのは218校であり、全国の国公立大学の約800校の内、実に4分の1強が看護系学部を設置していることになり、この分野の必要性がいかに高いかを表していました。他方、看護学科を有する短期大学は28校と減少する傾向にあります。しかし、実際は改組等により4年制大学の学部昇格させる大学が殆んどです。来年度は本学の他にも数校が看護学部を設置する予定です。医学の進歩に伴い看護学の教育課程の質・量ともに増加したことは否めません。加えて一般教養の充実も求められています。幸い本学はその時流に乗ることができました。現在の短期大学生の視点に立てば、短い期間に習得すべき看護学の内容は膨大であり、そのため密度の高い勉強が要求されます。昨年、高い看護師国家試験合格率を示した本学園の短期大学生の懸命な努力と教員の指導力は賞賛に値します。

看護学部開設に向け増築していた看護棟も、この2月、ついに竣工致しました。平成26年4月には、初代看護学部長として弘前大学より一戸とも子先生が着任する予定です。創設期の苦勞はつきものですが教職員一同の力を結集し無事に乗り越えてほしいものです。本学教員の熱意が地域社会に貢献できる有能な看護師・保健師の人材育成に存分に生かされますことを切に願っています。

地域社会に貢献できる人になろう

教育目的

生命の尊厳を尊重し豊かな人間性を備えて一人ひとりの『生』に寄り添い、科学的根拠に基づく判断力と技術による実践力を有し、他の職種と協働しつつ看護の向上に資する研鑽力を養い、地域社会の保健医療福祉に貢献できる人材を養成することを目的としています。



着実に成長できる学びのシステム

看護学部カリキュラム体系

カリキュラムポリシー ●教育課程編成の基本方針

看護学部は、建学の精神、教育研究上の理念、目的および学位授与方針に基づき、「**コモンベシックス**」「**人間探究科目**」「**専門科目**」が相互に連携し、学修の積み重ねによって着実にステップアップできるよう編成されています。



教育方法

少人数制ゼミナール・グループワーク・ディベート・PBL(問題基盤型学習方法)の活用

自ら学ぶ場の提供

実践を重視した実習教育



看護学部開設に向けて

今年度は看護学部の開設に向けて、3回（5・7・8月）のオープンキャンパスと3回（9・10・11月）の進学説明会を開催しました。オープンキャンパスでは教員による学部紹介、進学相談の他、在学生の協力を得て、参加する高校生が楽しめるような看護体験やキャンパスツアーを実施しました。

特に、10月に企画したハンドマッサージでは、在学生が高校生の手をマッサージするだけでなく、受験対策についてもアドバイスし、とても参考になったようです。そして、緊張がほぐれるように会話をすすめる先輩達の姿を見て、高校生も入学後の自分の姿をイメージできた様子でした。

オープンキャンパスを手伝ってくれる在学生も、回を重ねる毎に状況に応じて積極的に高校生と関わるようになり、学生自身の成長にもつながりました。（広報委員会 松島 正起）



特集 キャリア支援活動の現在の状況について

キャリア支援センター長 塩谷 未知

本学のキャリア支援活動は就業力につながる就職力育成を念頭に進めています。つまり、多様な年代や価値観を持った人とのコミュニケーション、主体的に行動すること、仲間と一緒に困難な問題に挑戦し解決すること、ストレスに耐えられること、そして基本的な行動ができることを狙っています。

1年生には3年生後半には就職活動が始まることを意識してもらいます。その上で互いに知らない同級生同士の壁を取り除き、コミュニケーションを行うことから始めます（コミュニケーションプラクティス）。さらに社会人や卒業生とのコミュニケーションの場を設定しています（トークサロンやトークセッション）。

2年生ではチームで課題に挑戦してもらいます。その一つが県内企業様のご協力を得て、新商品や販売促進策と一緒に考え学園祭や展示会で販売を行い、最終的にはネットでの販売を行うものです。企業様との厳しいやり取りがある中で、チームとして知恵を出し課題に向かうわけです（e-コマース実践）。

3年生では課題挑戦のプログラムであるトライア

ウト、つまりご協力企業様の課題に対して学生目線で解決策を提案しました。このトライアウトのハイライトは報告会です。企業の方や1年生から3年生、そして4年生コメンテーターの前で発表するわけです。報告が終わると間違いなく一皮剥けるくらいに成長しています。

もちろん3年生は就職活動のマナーというか基本動作を学びます。身だしなみや面接、論作文、エントリーシートなどなどです。

このようなキャリアプランニングを経て学内企業就職セミナーをキッカケに、就職活動が本格的に始まるわけです。

今年度の4年生の内定率は出足が少し遅かったものの、夏休みあたりから内定率が伸び出しています。学生自身の頑張りが第一の要因であり、加えてキャリア支援センターの職員の方、教職員の皆様、地域の企業の皆様温かいご支援の賜物と強く感じています。ありがとうございます。また、今後ともよろしくお祈りします。



学内企業就職セミナー

青森中央学院大学

現3年生の就職活動解禁を受けて、昨年12月3日県内大学の先陣を切って学内企業就職セミナーを開催しました。

学生たちはセミナー前には、経験豊かな外部講師による「就活スタートアップセミナー」を受講しました。昨今の就職活動状況、悔いの残らない職業選択などの基礎的な講義を受けた後に、企業研究・自己分析、職種や業種の研究の仕方、企業就職セミナーでの振舞い方を実践的に学びました。

学内企業就職セミナーは本格的な就職活動の始まりなので身だしなみや服装にも気を配り、真剣な態度で参加しました。多くの企業との接点を持つために、学生たちは訪問カードを事前に作成し、スタンプリーの要領で最低でも5社を訪問しました。

今年度は青森県中小企業家同友会の会員企業、青森県中小企業団体中央会の企業の方が初めて参加し、熱心に学生たち情報交換をしていました。

県内で最初に開催された学内企業セミナーであり、参加企業と学生の熱心なやり取りがあることも手伝い地元メディアにも取り上げられました。

参加企業の皆さん、また、教職員の皆さん、運動部の皆さんのご支援で今年も無事終えることができ、就職活動が本格的にスタートしました。

（キャリア支援委員長 塩谷 未知）

青森中央短期大学

短大からは食物栄養学科1年生64名全員と幼児保育学科2年生2名が参加しました。食栄一人あたりの平均訪問企業数は5.38社であり、昨年度の5.28社と同様、3時間をフルに使った積極的な参加となりました。セミナー1週間前の身だしなみチェックの際も、例年に比べて正しい着装ができており、何より当日、全員が遅刻・欠席などなく、誠実な態度で参加している様子が伺えました。

参加企業51社の内、短大生が話を聞きに回った企業は21社、41.2%であり、これは昨年度の71.4%より回る企業がかなり絞られた結果です。給食委託および食品関連の企業数は参加企業全体の23.5%であり、昨年度25.4%と比べてそれほど変化していない中で、回る企業の絞り込みが見られたのは、参加企業に対する事前の下調べに時間を割いた効果と見る事ができるでしょう。

もちろんセミナーの本当の目的は、その後の就職活動への積極的な参加であることは言うまでもありませんが、そのための「一歩踏み出す体験」が1年次の12月早々に実現できた意義は大きいです。一日も早く、実際のエントリー・出願につながるよう自発性を促しつつ、教職員ともども支援を続けて参ります。

（キャリア支援委員長 宮田 篤）

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

12月1日から企業の採用活動が解禁されたことを受け、3日「学内企業就職セミナー」が開催されました。学園全体参加数280人のなか、青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校では1年生合計29名が参加しました。

今年度も「キャリアデザイン」の授業の中で、リクルートメイク・身だしなみ講座や担当者に渡す名刺作成、自己PR、企業研究等事前指導を体系的に実施し臨みました。リクルートスーツ姿で参加した学生たちは、緊張した面持ちながら熱心に採用担当者の説明に耳を傾け、メモを取り、また積極的に質問をし、夢を実現させる一歩を踏み出しました。

参加企業は、県内・県外問わず51社あり、青森中央経理専門学校の3コース（経理事務・医療事務・観光コンシェルジュ）また、青森中央文化専門学校

の2専攻（アパレル専攻・ファッション販売専攻）の学生がめざす企業も多く、学生たちも意欲的にブースを回っていました。

学生の声として「規模が大きく同世代の学生に刺激を感じた」「いよいよ始まった」「多くの企業と接触を持ちたい」といった前向きな意見が聞こえてきました。

このように大規模な企業セミナーを学内で実施することで、参加学生も慣れ親しんだ環境で就職活動のスタートを切ることができ、有意義なものとなるでしょう。

本校ならではのこの経験を活かし、各々目標に向かって頑張ってもらいたいと思います。

（キャリア担当 鈴木 伸吾）

青森中央学院大学

本学とむつ市が連携・協力に関する協定を締結

青森中央学院大学は平成25年11月2日、むつ市と連携協力に関する協定を締結しました。

同市の「むつ来さい館」で開催された調印式では、本学の花田学長とむつ市の宮下順一郎市長が、地域の産業振興や人材育成、健康福祉の増進などを目指し、包括的に連携するとの協定書に調印しました。

ついで、まず宮下市長から「若い人たちの力を活かしながら、新しいむつ市を作っていきたい」とのご挨拶がありました。これを受け花田学長が「市民と学生の交流により、様々な可能性が生まれる。26年4月に新設される看護学部を含めた本学の総合力を活かしながら継続的に取り組む」と挨拶しました。

ついで、花田学長が「青森県民が陥りやすい日焼け・雪焼け・酒やけ」と題して記念講演を行いました。

さらに、本学教員が進行役を務め、本学学生とむつ市民及び市職員が、「下北の明日を考える」を統一テーマとし、3つの分野に分かれてワークショップを行い、取組がスタートしました。

(地域社会活動委員長 高橋 興)



元気便発送

ふっこう会は復興支援活動の一環として、12月16日、福島県南相馬市の2幼稚園に青森リング、お菓子、本学学生による励ましのメッセージや青森中央短期大学附属第一幼稚園園児製作の可愛い絵入りメッセージを詰めた「元気便」を発送した。クリスマスと新年が近づく中、福島の皆さんに元気で過ごしてほしいと祈っている仲間が青森にもいることを伝えた。元気便の経費はふっこう会のベトナム・コーヒーなどの販売、青森市の県外被災者交流会「つながろう会」の手芸品の制作・販売の活動で得られた収益で賄った。活動の様子が、テレビと新聞合わせてメディア6社にニュースとして取り上げられた。震災を風化させないための活動として、市民にも会の趣旨が伝わったことであろう。りんごを送った2幼稚園から写真入りの礼状が届き、今後の活動を継続していくための元気を私たちに与えてくれた。

(ふっこう会顧問
グエン・チ・ギア)



トライアウト

企業からビジネスに関する課題をもらい、学生がそのソリューションを調査・考案するトライアウトだが、今年の統一課題は「若手人材の獲得・育成・活用プラン」の考案である。学生はコンサルタントとしての立場に立って、広告や金融、小売といった様々な企業が抱える難問に取り組んだ。

自動車ディーラーを研究した男子学生は、「景気に関わりなく青森はクルマ社会。自動車愛する若手社員が同年代の顧客層にアプローチすれば、スキル・アップだけでなく販売実績の安定化にもつながる」と提案。クライアント企業からも好評を得た。また、サービス業（飲食）を調査した女子学生2名は、「顧客の記憶に残る“おもてなし”を、他業種から応用・転用するための社内研修制度」を考案し、こちらも高い評価を受けた。

プレゼンにも随所に工夫が凝らされ、聴衆を魅了した。学生たちは、企業人との出会いを通じて物事を肌で学びとり、たくましく成長する。今後の創造性の伸びに注目したい。

(キャリア支援委員会 椎名 智彦)

冬季スポーツ旅行商品の開発発表

経済学総合講義では、青森の冬の観光活動を盛り上げていこうという趣旨で、冬季スポーツや雪遊び、冬の暮らしなどに焦点を絞った外国人向けの冬季スポーツ観光商品の開発を行ってきた。学生の話し合いの中で企画案が生まれ、スカイプを利用して台湾の方にも意見を頂いた。

1月17日にはねぶたの家ワ・ラッセ会議室で、青森県観光国際戦略局、青森市観光課、青森商工会議所、青森観光コンベンション協会、市内の観光事業者、スポーツ関係者などの専門家の中で企画案を発表して意見を伺った。発表は3年生の水木悠平君、秋田真衣さん、佐藤悠樹君、一戸雄介君、柳谷和孝君の5名が代表して行った。この会議では専門的な立場から参考となる多くの意見を頂戴して、プランの一層の作り込みにつなげていく。

そして、2月中旬には台湾からのモニターツアー（4人）を実際に受け入れた。このモニターツアーには受講生の3年生だけではなく、1年生もスポーツボランティアとして参加した。

(経済学総合講義担当 内山 清)

私たちの地域活性-青森との付き合い方6パターン-

毎月第4木曜夕方に本学サテライトキャンパスFriendly Windowで運営中の「てつがくカフェ@青い森」創立一周年を記念して、去る11月に公開型シンポジウム「私たちの地域活性-青森との付き合い方6パターン-」を学术交流センターにて開催しました。

少子高齢・低成長下の地方に未来はあるのか？人口流出が続く青森に若者が定着する／帰ってくる可能性はどこにあるのか？ここに生きる私たちひとりひとりが「どう豊かに・楽しく生きていけるのか」？...と、経済振興とは少し視点をズラして地域活性を考えてみようという主旨です。

お迎えしたパネラーはいずれもユニークな活動をされている青森県出身の6名。その力強い生き方に鼓舞されたり、地域振興のヒントを与えられたり、はたまた厳しい状況の中でどう生き抜くのか、そもそも地域活性にとって重要なことは何かをあらためて考えさせられたり、あつという間の3時間でした。お力添え下さった皆さん、200名を超える参加者の皆さん、ありがとうございました。

(経営法学部 鈴木 克成 教授)

全日本大学ボウリング選手権大会 女子団体大会新記録！

平成25年11月に京都市で開催された、第51回全日本大学ボウリング選手権大会女子の部で、2年振り2度目の優勝を果たしました。昨年優勝を逃してとても悔しい思いをしたので、今回はその悔しさをバネに優勝だけを狙い試合に臨みました。試合は二人ともこのびと緊張もなく、いつも通り投げることができました。今回優勝できたのは大学からの支援や練習の場を設けてくれたアオモリボウルさんのお蔭です。この支援に再び応えられるよう、来年の連覇を目標に日々努力していきます。

(経営法学部
浅野 真唯・斎藤 あ咲)



文部科学大臣杯争奪第51回全日本大学ボウリング選手権大会 試合結果

■女子2人チーム戦 優勝 青森中央学院大学 6,348点 ※大会新記録
チームハイゲーム・ハイシリーズ 青森中央学院大学
個人ハイゲーム・ハイシリーズ・ハイアベレージ 浅野 真唯

■男子5人チーム戦 第4位入賞 青森中央学院大学A
第6位入賞 青森中央学院大学B
チームハイゲーム 青森中央学院大学A
個人ハイゲーム 工藤 純一郎

国際交流センターより

第20回青森県国際交流ジャンボリー開催

花田勝美学長が会長を務める「青森県留学生交流推進協議会」主催で10月12日、10月13日の一泊二日、南部町においてジャンボリーを開催した。

本学は当番校として、青森県と南部町、達者村ホームステイ連絡協議会と連携し、49名（県内留学生等41名・国際交流関係者8名）が参加した産官学事業を運営した。



海外からの訪問団誘致活動が盛んに

本学が構成団体の一つである「アジアからの観光客誘致推進協議会」は、平成25年度、海外からコーケン大学看護学部をはじめ、14団体・450名を超えるグリーン・ツーリズム体験を取り入れた訪問団・教育旅行団の誘致を達成した。

FSA クリスマス・パーティー開催

12月13日、FSA（外国人留学生と日本人学生がメンバーの交流サークル）主催のクリスマス・パーティーが開催された。

学生、教職員、地域住民など約150名の来場者には、留学生の母国料理が振舞われた。また、学生による様々なパフォーマンスが繰り広げられた中、留学生ダンスチームにパフォーマンス学長賞が贈られた。

今年も外国人留学生と日本人学生が協力することで学生主体の素晴らしいパーティーとなった。



サークル・ライフ Vol.7

カーリング部

部長の古滝文乃さんに話を聞いた。

10月から4月までは、青森市スポーツ会館で練習をしている。また、各部員が協会チームに所属し、各種大会に出場するなどしている。今シーズンは、青森県選手権大会で男子部員所属チームが優勝、女子部員所属チームが準優勝した。また、ミックスダブルスと呼ばれる男女2人で行う競技で東北大会第3位となった。今後も、各大会での入賞、上位大会への出場を目標としている。

カーリングは、大学から始めても上達できる他、男女関係なく試合をすることができ、最後まで勝敗が分からないところに面白さがあるという。また、カーリング精神というものがあり、相手を尊重して試合をすることも魅力だろう。試合で自分のショットがうまく決まったり、チーム一丸となる時がとても楽しい時間であるという。

カーリングは、初心者でも気軽に楽しめる青森の冬のスポーツである。興味のある方は一度実際に体験してみたい。そして、ぜひ入部してもらえたらと話していた。(学生記者 相馬 伽奈子)



ゼミ探訪～高山貢ゼミ～ Vol.27

高山先生の専門は主に地域経済で、ゼミでは実社会に近い活動を行っている。人数は一年生9人、三年生4人で活動している。活動内容としては、三年生は青森の観光について調べ、一年生は八戸、三沢へ行き航空博物館や八食センターなどの施設の見学を行い、青森について改めて考えることを目的とした活動をしている。その他の活動はDVDを見て世の中の動きを勉強し意見交換を行ったり、課外活動として就活セミナーで就職活動の実体験を行っている。ゼミの雰囲気は明るく元気で、三年生は焼き肉などに行き親睦を深め、一年生は学園祭に模擬店で玉こんにやくを販売し団結力を強めている。

パワーポイントを使ってプレゼンを行うので、人前で話す能力が身に付くことが期待できる。地元を知りたい、良くしたいと考える学生を求めており、いつでも研究室に遊びに来て欲しいとのことである。

(学生記者 久保 咲絵・豊島 絵里菜)



私の1冊

鈴木 芳美 先生

『20代で人生の年収は9割決まる』

土井英司著 (大和書房, 2010)

「20代は、実りある人生を送るための「仕込み」期間である。」ビジネスの世界には絶対の正解がなく、ルールもどんどん変わり、今や、ビジネスパーソンとしての成功は、「人それぞれ」です。本書では、「生涯使える自分の元手」をつくり、オンリーワンの自分の立ち位置を掴むために、若いうちしておくべきことのヒントを提示しており、就職活動のみならず、キャリアを考える上でも役立つ本です。

本書は、特別難しいことを要求しているのではありません。将来について漠然と不安を感じている人、何をしたいのかわからないと悩んでいる人は、まず、「当たり前すぎることをきっちりクリアしていくか否か」が、不安を解消し、自分を成功に導くカギとなると気づくでしょう。本書から、20代前半の若者に対しての言葉を贈ります。「素直さというのはハンパな賢さよりはるかに強力なスキルだ。」

OB 通信

拝啓 青森中央学院大学様

只今、株式会社マエダ マエダストア沖館店、青果(野菜・果物・花部門)担当として働いています。

旬の味と新鮮でみずみずしい、誰もが喜んでくれる商品を追求し・販売しています。

まもなく8年目を迎え、後輩も増え、相談されることも多くなりました。そんな時「学友会で4年間四苦八苦してきた事が、活かされているなあ」と、思う時があります。売場や商品を用意する計画の段取り、リーダーシップ、そして部下や後輩に作業・仕組・技術を教えるといったことを、ゼミやサークルのみならず、ともに苦楽を過ごしたOB、先生方、事務局の方々の指導のおかげと、感謝しています。

在学生のみなさんに、ぜひ卒業するまでに実践してもらいたい事があります「毎日の時間割」を毎日作ってください。時間は自分でつくるものです。社会では「時間割」はありませんが「期限」があります。自分の時間・趣味の時間などを1日の中で計画できる人ほど、中身の濃い結果が生まれます。今の経験は必ず未来で活かされます。大切に過ごしてください。 敬具

経営法学部5期生 菊池 英樹



突撃! 教えて!先生 その5 森田 学先生に聞く

— 大学生生活で努力したことを教えてください。

特にない気がします。大学院ではマンツーマンの授業だから準備をしないと授業が始まらないので努力しました。うちの学生よりはよっぽど試験対策はしていました。

— 趣味は何ですか。

天体観測だったはずですができていません。忙しいためと冬寒くて雪降っているからです。屈折望遠鏡はあるんですが。

— 青森市にきた時の気候について思ったことは何ですか。

堤川越えた瞬間に季節問わず風が強くなり、冬には地吹雪がどういふのかを体感させられました。赴任してきたとき12月あまり雪降らなかったのに、1月に3日4日で積って豪雪地帯ということを感じさせられました。

— 今の夢は何ですか。

上位に位置付けられている雑誌に載るような論文を書きたい。上位に位置付けられている雑誌に論文が載れば、自分の研究が社会的に意義があると認められ学者として仕事をした証になるから。

— 学院大学に赴任してきたときの学生の印象を教えてください。

学生がみんな大きいという印象を受けた。女の子も大きい人が多かった。

— 学院大学の学生の好きなおところ・直して欲しいことを教えてください。

好きなおところは挨拶が出来るところ。直して欲しいところは分からないところがあったら躊躇することもあると思うけど積極的に質問してほしいところ。

— 学生に何か一言お願いします。

授業に出るときは私語をしないでほしい。社会人になってしまうと今のように長い休みがないので大学時代にしかできないことを見つけて取り組んでほしい。自分のために自由に使える時間が一番多いのは大学時代だからその時間を有意義に過ごして欲しい。

(学生記者 新山 雅貴)



～若者歩き～

Vol.6

今回は青森市のイトーヨーカドー裏の道路を挟んですぐ向いに見えてくるケーキ屋さん、ゲン・ズズキを紹介します。店主さんの名前は、「はじめ」と書いてゲンと読むそうです。学生の頃ゲンと呼ばれることが多く、なじみが深かったために、お店の名前の由来となりました。

ケーキ屋さんを始めたのは、お菓子を作ることが好きであったためです。お店の人気メニューは、タルト・タタンという商品で、リンゴとさつまいもの2種類があります。誕生日ケーキの注文を受け付けていて、子供達からリクエストされたキャラクターを一つ一つ手作りしているそうです。お客さんの年齢層はまちまちであり、最近ではネットで見つけて来店される若いお客さんも多くなっているそうです。これからホワイトデーが近づいてきます。この時期になるとチョコをベースとしたさまざまな形のケーキや、三月にはチーズの上に、フルーツをたくさん載せた新商品が発売されます。この機会にバレンタインデーのお返しを買われてはいかがでしょうか。

営業時間AM10:00~PM8:00

定休日/第2・第3火曜日

(学生記者 豊島 絵里菜・久保 咲絵)



♪トレンドキャッチャー♪

Lv.6

オススメのスキー場を紹介します。冬は家にこもりがちですが、外に出て運動することも大切です。スキー、スノーボードをして楽しく冬を乗り切りましょう。

●八甲田スキー場：ロープウェイ山頂公園駅のある田茂菴岳山頂を基点として、7kmにも及ぶ長い滑走距離を持つ数本のコースからなり、初心者から上級者まで楽しむことができます。雄大に展開する樹氷はもちろんのこと、遠く、津軽・下北両半島や北海道を望みながらの滑走は八甲田ならではのです。場所によってはサマースキーをも楽しむことができます。●モヤヒルズ：最大滑走距離が1,800m、リフトごとにコースを設置し、子供から大人までみんなが楽しめるスキー場です。ナイターゲレンデでは、青森市街の夜景を一望しながらロマンチックなナイタースキーを楽しむ事ができます。●ナクア白神スキーリゾート：秀峰岩木山の北斜面に位置し安定した積雪量、雪質に定評がある他、ゴンドラ山頂921mからは、日本海・津軽平野が一望できます。標高差545m、3.4kmロングコースで海に飛び込むような爽快感を味わえます。朝一番で山頂に繰り出せば、整備されたゲレンデとブナ森コースで自然を満喫できます。

ぜひ行ってみてください。(学生記者 齋藤 景一)

青森中央短期大学

卒業に向けて

食物栄養学科：11月27日・28日、1年生の後期から取り組んだ研究の集大成として、特別研究発表会が開催された。県産品PRに関する研究や食品成分に視点を向けた研究、健康づくりのための食事や調理の工夫など、40題の多彩なテーマが発表された。聴衆に向けた熱意のあるプレゼンテーションが多くみられ、活発な質疑応答が行われた。

約2年間の研究を通じ、研究テーマを設定し探究することの難しさや楽しさを経験したと思うが、この経験を活かし、探究心をもった社会人として活躍してほしい。

幼児保育学科・専攻科福祉専攻：今年度はポスター発表形式で実施した。聞き手の求める内容に真摯に答えるというプレゼンテーション能力の向上と、聞き手が発表者から積極的に学ぶ姿勢の向上を目指しての転換である。2日間の掲示発表では学生が自由に観覧し、疑問点を投書し口頭発表時に活用した。12月5日、7会場で実施した特別研究59、修士論文7テーマの口頭発表会では、自信を持ってプレゼンする姿勢、ディスカッションの深まりの様子から当初のねらいが達成された感があった。2年間の

学びの集大成としての論文の完成・発表は学生にとって大きな学習成果の証である。



看護学科：10月30日～11月1日にかけて看護研究Ⅱ発表会を実施した。発表演題は88題（7領域）であり、臨床実習で受け持った患者への看護援助を振り返る事例研究、興味・関心をいだいた事象に対する文献研究が主であった。約半年間を費やした研究成果は1階ホールに3日間掲示され、後輩の看護研究の実施に向けての動機づけとなった。また、各領域から推薦された研究7題が口頭で発表され、各専門領域の特殊性や患者の個別性を考慮した看護援助の必要性について考察されていた。

卒業後も、個々の看護観を磨くと同時に、継続して研究し、根拠のあるケアを提供していくことを期待する。

平成25年度公開講座

毎年開催している公開講座は、各学科の特色を活かす内容で構成している。本年度は『むきあう～現在・過去・未来』という統一テーマのもと、9月にデッサン教室、10月に認知症とフェイシャルエステの講座、10月に郷土料理講座、12月にクリスマス親子クッキングを開催した。新しい試みである10月の「心をつなぐおばあちゃんの郷土料理」では、「津軽の甘いおこわ」「長いものすいとん」「身欠きにしんとねぎのぬた」など、南部地方の郷土料理を調理し、自然の恵みを味わって頂いた。『昔食べた味を懐かしく思った』『郷土料理について興味あり、とてもよかった』『郷土料理を伝えていきたい』など大好評であった。講座をシリーズ化し、若い世代へ伝える機会を増やしていきたい。郷土料理は無形文化遺産となった和食を身近に感じることでできる一番の教材である。見た目の美しさ、四季折々の食材などを使用した郷土料理を伝え、大事にしていきたい。（地域社会活動委員会 辻村 明子）



ひとり芝居「ノッポさんの宮沢賢治」

「ひとり芝居 ノッポさんの宮沢賢治」が11月10日、青森県立美術館シアターにおいて満席で上演された。

宮沢賢治の代表作「注文の多い料理店」では、服を脱いだり、粉をふったり、油を塗ったりと、2人の猟師の行動を面白おかしく描き、料理を食べる客ではなく、自分たちが食べられる材料になっていく姿を、1人3役で演じた。また、ノッポさんが大好きな作品「狼森と兎森、盗人森」では、大きなキャンバスに語り掛けながら絵を描いた。森と人間のやり取りを、原作に忠実に、面白く、悲しく、優しく、ユーモラスに語り、自然と仲良く生きていかなければならないと言うメッセージを伝えていた。

福祉をどの年代の方にも理解していただくための公演とスペシャルトークであったが、周りの見ず知らずの方たちと会話をしあう、福祉の始まり、そんな人との関わりを教えていただけたように思う。



幼児保育学科卒業記念公演

幼児保育学科43期生の卒業記念公演が、去る12月21日、アウガで開催された。今年の演目は『白雪姫』（幸せ～本当のうつくしさととは～）。グリム童話の白雪姫を、キャスト班の歌やダンス、音楽隊の生演奏、造形班の映像や道具類、カラフルな衣装や照明でミュージカル仕立てにリメイクし、総勢500名近い来場者に笑いと感動の涙をおくった。その年によってそれぞれの作品の味わいと思い出があり、私たち教員にとっても毎年のことながら感無量のステージとなる。

毎回来場して下さる市内の保育園の子どもたち、何度も足を運んでくれる卒業生たち、あこがれの眼差しで自分の将来を重ねる高校生たち、成長を見守ってくださるご家族の方々など、多くの期待やあたたかい拍手の中で学生達の卒業に向けての決意が一層大きなものになったようにみえた。このステージが彼らの心に刻まれることが、新たな旅立ちへの最後の準備である。「学生時代」という夢のような場所からの旅立ちにふさわしいアルバムの1ページであった。

（幼児保育学科 前田 美樹 准教授）

同窓会

10月19日18時より、青森国際ホテルにて「青森中央短期大学同窓会総会および同窓会新入生歓迎会」が行われ、ご来賓・同窓生および教職員が集いました。総会に続き、懇親会ではなつかしい先生方や同窓生と思い出話や職場での苦労話などで盛り上がり、学院大の学生がプロデュースした県産品などが当たる抽選会もおこなわれ、最後は名残惜しさを残しつつ校歌斉唱・記念撮影にて幕を閉じました。

毎年この時期に行われる同窓会に、より多くの同窓生の参加をお待ちしています。



大地連携ワークショップへの参加

昨年8月、山形県最上郡金山町において、FDネットワーク“つばさ”主宰の大地連携ワークショップが開催されました。テーマは「キラリ金山再発見」です。8つの高等教育機関から集った総勢44名の学生・教職員が、金山町教育委員会の協力の下、日中は町内のフィールドワーク、夜は金山町の魅力を発見し外部にアピールする方法・手段をグループで話し合いました。

本学からは、岡崎勝博教授と幼児保育学科1年の矢田芳梨さん、服部真侑さんが参加しました。地元住民の方々や同世代の他大学の学生と切磋琢磨する経験は、地域の魅力探しというテーマを実現する上で、多に刺激になったようです。

来年度の開催地は山形県最上郡戸沢村に決定しました。本年度同様、本学からも参加者を募り、積極的にこのワークショップに学生を派遣したいと考えています。

（幼児保育学科 清多 英羽 准教授）



管理栄養士国家試験対策講座

本学では、卒業後のキャリアアップ支援として、食物栄養学科の卒業生を対象とし、「管理栄養士国家試験基礎講座（以下 基礎講座）」、「管理栄養士国家試験対策直前講座（以下直前講座）」を継続して実施している。

基礎講座は、国家試験受験のために必要な基礎知識の再確認を目的として、食物栄養学科の教員が10～12月での土曜日に4回実施した。管理栄養士の受験資格を得たばかりの、3年目の卒業生だけでなく、将来的な受験に向けた昨年度の卒業生から、30年以上前の卒業生まで幅広い年代の方が受講した。

直前講座では、国家試験対策の専門校である。東京アカデミーとの共催で、今年度の国家試験合格につながる重要なポイントを重点的に指導した。有料の講座となっているが、専門業者が開講している直前講座より割安な金額で、1月～2月の土曜日に集中的に実施した。

来年度以降も継続的に実施予定で、食物栄養学科を卒業後、管理栄養士の国家試験取得を目指す方は、基礎講座、直前講座の受講を勧めている。

先生の自分史「彩りの鮮やかさ」

幼児保育学科 松浦 淳 先生



私は三人兄弟の末子として旧西ドイツで生まれ、生後一ヵ月半で日本の山口県にきました。ラグビーと詩に逃避した高校生活、三畳一間他室訪問厳禁毎日5時間必修自習付きの予備校寮生時代を経て、ついに独り暮らしを始める時、私はあることに気づきました。それは「両親が老いている」「もうすぐ働かなくては」ということです。周りの状況にゆっくり気付くタイプの方ですね。それから「自分の何がお金になるんだ?」と考えて悶々とし、もう一回進学し、幾つかの仕事の掛け持ちを経て、発達障害に関わるNPO法人を設立し運営にあたりました。

色々と転がる中で自分が大切にしている感覚として「無意味なことなど無い筈」ということがあります。一見無駄に映る物でも、実はそのお陰で助かっている人がいる。そういう人の存在を知ること、今までよりも世界が複雑に見える。その複雑さを「彩りの鮮やかさ」と感じられる時間や仲間を、これからも大切にしていきたいと思えます。

読んで欲しいこの1冊

看護学科 三國 裕子 先生 『お伽草紙』
太宰治著(筑摩書房, 1945)

「お伽草紙」は、民族の深層意識ともいえる誰もが知っている民話をもとに、人間の業と宿命の恐ろしさを造形したパロディ作品集である。作品を読んだ時、生真面目な太宰とのギャップに驚いたものだった。例えば「瘤取り」では、お爺さんはお婆さんにとって煙たい存在で、お爺さんの瘤が取れようが、リアリズムに生きるお婆さんには「だからどうした」という具合である。「カチカチ山」では、狸は愚鈍大食の男で、兎の娘に徹底して懲らしめられる。このように、作品は痛烈であるが、それだけではない。「浦島さん」では、玉手箱を開けた浦島太郎は決して不幸なのではなく、むしろ救われたのであり、それから10年幸福な老人として生きたことになっている。「年月は、人間の救いである。忘却は人間の救いである。」という表現に、太宰、そして津軽の厳しさと優しさの双方を感じることができる。人生は、哀しいことが多いから笑いたいのだと思う。若い方、疲れた方に読んでいただきたい1冊である。

研究室を訪ねて Vol.7

～高橋佳子研究室～

もうじき、高橋部屋からは6期生8名が巣立とうとしています。私の専門は母性看護学ですので、母性に興味のある学生や助産師をめざす学生が集まってきました。毎年個性豊かな学生が集まり、たいへん苦勞しながらも、新たな出会いと発見を楽しみながら指導しています。

「分娩」「母乳育児」「愛着形成」「育児」等々、限られた期間内で行うには難しい内容ではありますが、母性の実習や授業の中で抱いた素朴な疑問からテーマを絞り込んで、取り組んでもらっています。

皆「ヒーヒー」言いながらやっていますが、自分の興味のあるテーマについての考察が深まっていくにつれ、ほんの少しではありますが、研究の楽しさを実感してくれているようです。そして、一つ一つの研究が出来上がるごとに「お～、なるほど!」と、一番面白がっているのは、実は私自身です。今年もたくさん勉強させてもらいました。高橋部屋の皆さん、ありがとう!



卒業生も活躍しています

食物栄養学科39期生 ときわ会病院勤務
阿部 優梨香さん

私は卒業後、3年間透析中心の総合病院で栄養士として勤務しました。現場をまとめながら調理業務を担当し、現場でしかわからない事をたくさん経験しました。

勉強しながら3年の実務経験を経て、学生の頃からの目標であった管理栄養士に合格しました。独学での勉強は本当に大変でしたが、また一つ道が開けたと思います。栄養士も管理栄養士も、患者さんの健康、栄養管理をするという目標は変わりません。学校の授業や職場で学んだことを生かし日々勉強しています。今後は栄養指導を通し、多くの人に食について伝えたいと思っています。

栄養士を目指す学生の皆さん、相手に何を一番に伝えたいか目標を持ってみて下さい。最初は、わからないことばかりですが、同じ目標を持つ仲間が必ずいます。その仲間と一緒に、理想の栄養士になれるよう諦めず頑張ってください。



キャンパス再発見～造形室～ Vol.7

今回は、132教室（造形室）をご紹介します。私たち幼児保育学科の学生は、工事も終わり、リフォームをした新しい環境の中で授業を受けています。造形室では、授業の一環としてクリスマスパーティーをしたり、実習のための制作活動を行ったりしています。

設置されているテーブルが大きいので、制作しやすく、みんなとコミュニケーションを取りながら楽しく作業をすることができます。また、音楽を流せる機械があるため、良い気持ちで授業に取り組めます。教室が開放的であり、1人でも落ち着いて作業をすることができるので、キャンパスの中でもお気に入りの場所の一つです。

学内にあるたくさんの教室の中でも、造形室は私たちの気持ちを切り替えさせてくれ、安心させてくれる場です。私たち保育士のたまごにとってとても居心地が良い空間です。来年は授業がありませんが、安らぎを求めて私たちの癒しである、大好きな造形室に足を運びたいと思います。

(学生記者 田中ひかり・矢田芳梨)



謎に包まれる寮生の生活 Vol.6

今回はこぶし会館の生活について、お話ししたいと思います。

こぶし会館では、夜10時が門限です。点呼もあるため、最初は気持ちが落ち着きませんでした。そして、外泊・帰省の時は、届け出をすることになっており、たとえば週末に外泊する時は、その週の火曜日までに提出が必要です。事前の準備が必要なため、寮生活の最初はとまどうことがありました。でも、友達もたくさんいたので心の支えになりました。

部屋は一人部屋ですが、お風呂やトイレは共同です。朝夕のごはんは、食堂で友達と会話をしながら食べることができます。

寮が敷地内にあるため、忘れ物をしたとしてもすぐ取りに行けることも利点の1つだと思います。

寮内でも多少の制限はありますが、様々な人との交流を持つことができます。最初の頃は不安もありましたが、今では楽しい毎日を送っています。

(学生記者 田中ひかり・矢田芳梨)



1人暮らしのレシピ Vol.6

今回ご紹介するのは、「もやしのキムチ炒め」です。

もやしはビタミンCやカリウムを多くふくみます。また、価格も安く手に入れやすい野菜です。そして、おかずが一品欲しい時に手間なく簡単に作ることができます。

材料は次の通りです。

もやし100g・キムチ40g・ひき肉50g・
ごま油適量・豆板醤小さじ1/2・みそ小さじ1・
しょうゆ適宜

作り方は次の通りです。

- ①フライパンにごま油を引き、ひき肉・豆板醤・もやしの順に入れ炒めます。
- ②炒めたらキムチを入れ、みそ・しょうゆで味付けし、完成です。

手軽に調理できて、しかもご飯に合うので、おすすめですよ。ぜひ作ってみてください。

(学生記者 太田 遥)



考シリーズ～昼食考～

大学生になると、一人暮らしや寮生活で自炊する人が増えてきます。普段、授業がある日の昼食は、①お弁当を持ってくる、②カフェテリアに行く・購買で買うなどの方法が挙げられると思います。そこで今回は、本学の学生たちは昼食をどうしているのか、調査しました。学生15名に調査したところ、お弁当派が9名、カフェテリアに行く・購買で買う派が6名となりました。

前者の意見の学生達の場合、『経済的に良い』、『好きなものが食べられる』、などが挙げられていました。また、後者の理由としては、『お弁当をつくる時間分も寝ることができる』、『温かいものを食べることができる』などが挙げられていました。

このことから、昼食の選び方にはそれぞれ理由があることがわかります。自分の生活スタイルに合わせた昼食の選び方が大切であると言えるのではないのでしょうか。

(学生記者 田中 春菜)



附属第一・第二・第三幼稚園 / 中央文化・浦町保育園

認定こども園附属第一幼稚園



〈水族館見学〉トンネルから見える魚さん達に歓声。



〈秋の遠足〉やっぱりお母さんの手作り弁当はおいしいよ。



〈イルミネーション点灯式〉5・4・3・2・1 やったあ…

認定こども園附属第二幼稚園



〈歯科検診〉大きく口を開けて乳歯を見てもらいました。ご飯を食べ終わると歯をみがくので、いい歯がならんでいます。



〈おもちつき会〉日本の伝統行事、日本の文化を体験しました。つきたてのおもちは、おぞう煮にして、たくさん食べました。



〈クリスマス誕生会〉楽しい楽しいクリスマスがやります。12月のお誕生日のお友達をお祝いしました。サンタさんにも質問したよ。

認定こども園附属第三幼稚園



〈3B体操〉バルターを使って、先生の周りに集合。けっこう難しいのですが、今ではすっかり上手になりました。



〈おゆうぎ会〉今にも声が聞こえてきそうな年長さんの「オズの魔法使い」。迫力がありました。



〈クリスマス誕生会〉突然のサンタさん登場にびっくり。でもしっかりサンタさんとアイコンタクトをとってにっこり。

先生達活躍しています 第11回

子供達の成長を願って

認定こども園附属第一幼稚園

三上 舞先生

栄養教諭として勤務し、五年が経とうとしています。最初の頃は、給食の時間に間に合わせる為に食材を切ったり、煮たり、炒めたりする毎日必死だったように思います。日を重ねるにつれてだんだん慣れて少しずつ余裕が出て、子供達と話す会話の中から、好き嫌いについてやその日に子供達が給食で感じたことを聞き、次の給食での味付けや献立にも活かせるようになりました。

また、食育にも興味を持ってもらうための指導方法を先生方から学びました。給食の前には丁寧に手洗いをするなどの衛生面についてやカルシウムの大切さなどを紙芝居や手遊び・歌・体操を取り入れながら少しずつ子供達の前で行えるようになりました。

残食が少なく、おいしかったよと言われることがとても嬉しく思います。子供達の声を励みにこれからも健康で元気に成長していくために必要な食材や調理法を私自身も勉強し、心豊かな子供に育つよう頑張っていきたいと思っています。

2歳児の担任として

認定こども園附属第三幼稚園第三ばんびくらぶ

高木 瑞季先生

第三ばんびくらぶに私が来た時は9名だったばんびさんも現在では16名になり、以前にも増して賑やかになりました。私は2歳児の担任をしています。

2歳児になると、簡単な身の回りのことを自分でしようとするようになります。しかし、まだ全てを完璧にはできないので、つつい手を貸したくなりますが、子どもの「自分でやりたい!」という気持ちを大切にしながら、必要に応じてさりげなく援助するようにしています。できなかったことができるようになった瞬間に立ち会うと、とても感動します。

また、言葉の数が急激に増え、自分の意志や欲求を言葉で表そうとするようになります。毎日子供達とお話することが私の楽しみです。

子供達と一緒に過ごせる時間も残りわずかとなってきました。子供達が今日も幼稚園楽しかったと思える保育を展開していきたいです。

5歳児の育ちはすごい!

認定こども園附属第二幼稚園

中村 里香先生

憧れだった幼稚園教諭になって6年目、昨年に引き続き今年も年長組を担当しています。元気いっぱい、笑顔いっぱいの子供達と向き合い、日々楽しく保育を行っています。3年間の幼稚園生活を終えようとしている子供達は、とてもたくましく育っています。今では年長児全員が園内のリーダーとなり行動し、責任感を感じながら毎日活動しています。小学校就学前になると、年長さんではたくさんの「すごい!」が見られます。ひらがなや数字に興味を示し、自分の名前を書けるようになったり、読書に慣れ親しむ時間が多くなったり、また生活面では、先生に言われなくても自分で考え次の活動の準備をしたり、お友達や先生が困っていると進んで手伝ったりと、優しい声をかける姿がよく見られます。子供達はたくさんの経験を通し、「生きる力」の土台となるエネルギーを育んでいます。

読み聞かせたい一冊の絵本

中央文化保育園 野呂 恵理花 先生

『ばあちゃんのおなか』

かさいまり作/よしながこうたく絵(教育画劇,2010.8)

『ぼくのばあちゃんは、いつもいっぱいわらっていっぱいあそぶ。ぼくは、おおきなばあちゃんのおなかがいすき』

一度、見たら忘れられないほどの大きな笑顔のこうたのばあちゃん。ポンポン大きなおなかも大迫力。いつも笑ってばかり、遊んでばかりのばあちゃん。そんな、ばあちゃんが本当にだいすきなこうた。

ある日、いつまでも一緒だと思っていたおばあちゃんが病気になった。ぼくは…。

豪快に描かれている絵に胸を膨らませて読んでみると、しっとりとした、でも力強く頼もしい物語です。ばあちゃんを想いながら歩く風景の美しさに切なくなり、前に向かって歩き出すこうたの姿にホロホロと涙がでてしまうような、愛情がたっぷりと詰まった一冊です。まさに帯にも書いてあるキャッチコピー「たのしくて おもしろくて じいんとくる」がぴったりな内容です。

中央文化保育園



〈もちつき会〉「ヨイショ!ヨイショ!」のかけ声で大きなきねを持ち、年長児だんば組がおもちつきをしました。

浦町保育園



〈勤労感謝に青い森鉄道へ職場訪問〉列車に乗って、モーリー君と楽しい一日を過ごしました。



〈特別養護老人ホーム三思園へ、4歳児の女の子が訪問〉おゆうぎ「津軽はね太鼓」を踊り、たくさんの拍手をいただきました。

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

Bunka Fashion Live 2013

青森中央文化専門学校は平成25年12月21日、アウガ5階AV多機能ホールにて、Bunka Fashion Live 2013を開催した。今年度はテーマを「THEATRE.yours=」～映し出すそれぞれの世界～と題し、幻想的なデザインの衣装をはじめ、学園祭コスチュームショー「Emotional game」で発表したオリジナル作品、卒業・修了制作作品の他、公募で参加した青森スクールガールズモデルも登場。第2回公演では、あおりファッション協会の引き継ぎセレモニーも行われ、同協会が長年取り組んできた「車椅子ファッションショー」にて本学生がデザイン・制作した衣装と、あおりファッション協会前理事長である鷺尾千代氏が制作されてきた玩具ファッション衣装の一部も披露された。



学生パソコン教室～ワードで年賀状作成～

青森中央経理専門学校は、平成25年11月2日、学術交流会館3階935教室にて学生主催のパソコン教室を開催した。一般の方々を対象とした無料パソコン教室は、学生が地域住民の方々と触れ合いながら地域貢献と社会参加の大切さと、各自が役割を持つことで、組織の中で考え、自ら行動することを目指して毎年開催している。参加者の方々からは、「スタッフの人数も多くマンツーマンで受講でき、短時間で年賀状が仕上がった。」「資料が充実して良かった。来年も是非受講したい。」と感想を頂き、学生達は自分の成長に繋がる時間を過ごした。



昭和通り歌姫衣装制作

青森中央文化専門学校は、青森市古川にある多目的スペース「BLACK BOX」（旧青森松竹会館）で、平成26年1月25日に行われた「昭和通り爆発劇場」へ出演する出演者の衣装デザインと制作をした。

衣裳は70年代アイドルをイメージし、「昭和通り商店街が生み出した歌姫」のコンセプトで衣装をデザイン。約2ヶ月間で制作を完了。デザインは学生全員が提案し、その中から1つを選定。衣装だけでなく、ヘアアクセサリも制作し、「BLACK BOX」2Fで行われる歌姫の初ライブに色を添えた。平成25年12月3日には授賞式に参加し、衣装制作に協力したことを称える賞を頂いた。



生涯学習フェア 2013

青森中央経理専門学校は、平成25年10月5日、青森市荒川にある青森県総合社会教育センターで開催された生涯学習フェア2013に参加した。内容は、センター内にあるパソコン実習室を使用し、学生がインストラクターとして、参加者のお気に入りの画像や写真を用いてのオリジナルカレンダーを作成した。会場内は、農産品の販売や消防車の体験乗車など様々なイベントが催され、親子連れや年配の方など幅広い年齢層の方々が賑わった。今回、このフェアには初めての参加だったが、学んだことが社会で活かせることを実感できた社会参加活動であった。



経理発信情報 Vol.10 ～BLOG☆サークル～

「BLOG☆サークル」は、平成25年4月にできたサークルで、2年生4名で構成されています。活動内容は、学校公式HPのブログに、専門学校での出来事をお知らせしたり、ブログに掲載する写真を自分達で撮影したりしています。

ブログは今や、誰でも、手軽にできる情報発信ツールになりました。学校行事に参加した様子や、検定前の勉強の様子を広く、多くの人に知ってもらいたいと思い活動しています。また、自分達で撮影した写真にも一工夫加えながら楽しく活動しています。

今後も行事だけでなく、色々な楽しさを発見し、皆さんにどんどん情報をお知らせしていきます。(学生記者 BLOG☆サークル長 小田 子織)



おすすめ図書 vol.9

青森中央経理専門学校 佐藤 紋子 先生
『話す力』が面白いほどつく本』
櫻井弘著 (三笠書房, 2003)

皆さんは、自分の話し方に自信がありますか？家族や友人と話すときは全く緊張しないのに、大勢の前で発言をする時には、自分の言いたかった事が半分も話せなかった経験ありませんか？

社会人になってから、人前で発言する場面が多くなり、同時に人の発言を聞く場面も多くなりました。特に広い分野で活躍されている方々の話を聞いていると、まさに、「吸い込まれる」の一言です。私は元々、人前で話をするのが得意ではなく、「人前で話をする力」を成長させるには「話す場から逃げない」ことしかないと考えていました。

今回紹介する本書では、話し方のコツを図解を使いながら分かりやすく説明しています。また、会議での発言、上司への報告、電話を受けるポイントなど、場面ごとのポイントが書かれています。

私自身、何度も読み返し、実践しています。特に新入社員の方にはコミュニケーションの円滑さが仕事のモチベーションにも繋がると思いますので、参考にしていただきたいです。

ファッション通信 vol.9

[2014年 春のオススメ style]

今年の春は、さりげなくトレンドを取り入れ、定番のパステルカラーなどの明るい色で春の爽やかさを演出するのがオススメ。ビジュ（フランス語で「宝石・宝飾品・アクセサリーのこと」）をあしらったノースリーブブラウスやレースをあしらったボトムスなどでガーリーさを表現できます。



小物はキャットアイ型のサングラスやクラッチバックなのでいつもと違った印象に。また、フラワーモチーフを取り入れ遊び心を加えてみては？

(デザイン画：文化編集部サークル)

卒業生ピックアップ No.22

青森中央経理専門学校 平成24年度卒業
北日本海運株式会社 勤務 小池 航さん

私は、北海道と本州を結び、流通の大動脈の役割を担う北日本海運から内定をいただき、現在、旅客様の手続きや車両乗船手続きの窓口業務や事務処理を行っています。



観光コンシェルジュコースに在籍していたので、観光地の発展と活性化に繋がる仕事がしたいと思い、現在の会社を志願しました。専門学校で学んできた簿記と観光、パソコン知識と技術、ビジネスマナーを徐々に活かせる場面が見え、仕事の楽しさを感じています。

後輩の皆さんに伝えたいことは、一つ一つの行動に責任を持つ意識を強く持って下さい。学生のうちはあまり意識することは少ないですが、社会にでると必然的に意識する瞬間が来ると思います。今まで学校で学んできたことを基に、新たなステージへ向かって下さい。応援しています！

インフォメーション

FRIENDLY WINDOW より

FW市民セミナー「いろんな青森・いろんな時代III」

青森中央学院大学サテライトキャンパスでは、昨年「いろんな青森、いろんな時代」のタイトルのもと、市民向けのセミナーを開催している。これは、最先端の研究を進める若手研究者に講師をお願いすることで、若手研究者にとっては自らの研究成果を披露する場となり、聴講する市民にとっても最先端の研究に触れる機会となることを意図したものである。

昨年度の「近代の青森」、「青森の女性と文化」に続き、本年度は、「青森とグローバル」の共通テーマで5回のレクチャーを行った。第一回はカナダ、レスブリッジ大学助教授の藤原義天恩氏、第二回は韓国、東義大学校助教授の鈴木啓孝氏、第三回は青森県立郷土館の本田伸氏、第四回は筑波大学助教授の山下須美礼氏にお願いし、第五回は青森中央短期大学の北原かな子が担当した。

各回とも会場は満員となり、講師の話に熱心に聴講する市民の熱気に包まれた。このセミナーは、来年度も「青森と民俗」など、市民から要望がだされているテーマを中心に開催して行く予定である。

(FW市民セミナー担当 北原 かな子)



青森中央文化専門学校 公開講座

昨年の5月よりサテライトキャンパスFRIENDLY WINDOWにおいて、12回連続講座を実施した。

公開講座は大きく3つのテーマで行われた。「トールペイント」では初心者でも簡単にできる薔薇の絵を描き、レースやビーズなどでデコレーションしたジュエリーボックスを制作した。

青森中央短期大学1期生の木野洋子先生による「こぎん刺し講座」は、基礎のコースターから応用・発展の小物入れ・タペストリーと初心者から経験者まで楽しめる内容で、毎回定員を越す申し込みがあり、好評を博した。

最後に開講した「きもの地で作るミニお雛様」では、着物や袴を一つ一つ手縫いで作りあげた。衿・着物・袴の色を選び、色の組み合わせでする事でそれぞれ自分だけのお雛様を完成させていた。

参加者は青森市内だけではなく、弘前市や遠く県外からの受講者もあり、好評を得た。次年度も地域の方々に喜んでいただけるよう、こぎん刺しやジュエリー制作などを予定している。

(公開講座担当 佐々木 美保子)

学生会館合同夕食会

10月23日に、学術交流会館1Fカフェテリアにて合同夕食会を実施しました。これまでの学生会館の行事においては、歓迎会及びお別れ会といった、入口と出口でしか親睦を深める機会がありませんでしたが、年度中間に当企画を盛り込んだことで、段階的に学生間の距離感を縮めることを目的として実施しました。

学生と教職員が共同で企画・立案をし、学生が参画しやすい計画を立てた結果、夕食を楽しむだけでなく、交流を深めやすい様々なイベントを盛り込みました。今回の夕食会で例年になく親睦を深められたことは大きな成果であり、各学生のコミュニケーション能力の向上や異文化交流を図ることができたと考えております。

今後は当企画のみならず、学生生活の充実を図るために様々な企画を実施・計画していくことに努めたいと思います。



開催行事案内

青森中央学院大学サテライトキャンパス FRIENDLY WINDOW

所在地：青森市新町2-7-13（新町通り柳町交差点）

●学生カフェ「colorful」

OPEN：2月17日(月)～3月31日(月) 11:00～18:00
定休日：毎週水曜・日曜・3月25日(火)

●学生カフェ「colorful」イベント

日時	内容	定員	参加費
2月28日(金) 11:30～14:00	学生交流会 (大学生限定) ※軽食付き 申込み締切 2/21	男女各10名	男性500円/女性300円
3月7日(金) 3月21日(金) 11:30～14:00	ゲーム交流 ※申込み締切 3/3	16名	無料
3月14日(金) 11:00～18:00	ホワイトデー限定セットメニュー販売		
3月28日(金) 11:30～14:00	学生サミット (大学生限定) ※軽食付き 申込み締切 3/3	15名	500円

●てつがくカフェ@青い森 (要事前申込)

時間：18:30～20:00 対象：10～40代の社会人・学生

日時	内容
2月27日(木)	映画『ハンナ・アーレント』鑑賞の背中を押す日
3月20日(木)	シネマ de てつがく 第1回

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

●オープンキャンパス

日時	内容	対象	会場
3月12日(水) 13:00～16:00	学科・要項説明、体験授業 など	高校生・保護者	学術交流会館

●中学生・高校生・保護者のための青森県職業体験フェア

日時	内容	対象	会場
3月26日(水) 13:30～17:00	仕事体験・職業適性診断・相談コーナー 等	青森県専修学校各種学校連合会	ねぶたの家 ワ・ラッセ

学生カフェ "colorful" OPEN !

こんにちは！ただ今サテライトキャンパスでは、3月31日までの期間限定で、経営法学部生による学生カフェ"colorful"を営業中です。本格的なコーヒーにホットサンドやパフェ、ジェラートなど、軽食からスイーツまでバラエティーに富んだ商品を提供しています。何とんでも大注目なのは、昨年夏、ねぶた祭りや学園祭で大ヒットしましたジェラートの復活です！青森中央学院大学オリジナルのマンゴージェラートの他、一度に全10種類が味わえる"特盛"が登場です！

また、イベントも同時開催します。大学生同士の交流を目的としたサミット、ホワイトデーには限定メニューの販売、そしてゲーム大会もあります。

学生カフェ"colorful"は、学生が主体となって企画から運営まで行っています。学生一同精一杯おもてなし致します！ぜひいらしてください！

(学生カフェ"colorful"広報担当 沢田 慎也)





「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、5月発行予定の90号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■90号応募締め切り：4月10日

■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。

※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生在が撮影した未発表作品に限ります。

※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。

お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp



携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第89号

発行日：2014. 2.25

発行：学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL：017-728-0131

FAX：017-738-8333

<http://www.aomoricgu.ac.jp>

<http://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長

北原かな子
坪谷 輝子
岩葉 悦子
中田 尋美

加藤 澄

佐藤 紋子
赤坂 敦子
高橋 晴美

学生記者

久保 咲絵
齋藤 景一
太田 遥
矢田 芳梨

相馬伽奈子
須藤 友英
田中 春菜

新山 雅貴
豊島絵里菜
田中ひかり